

林大の風

第20号
高知県立林業大学校

新年のご挨拶

新年、明けましておめでとうございます。旧年中は本校の講義や実務研修、インターシップ等につきまして特段のご理解、ご協力を賜りましたこと、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

昨年は新型コロナウイルスの影響で入校式を中止し、研修生は5月まで自宅学習を余儀なくされるという状況下の中、オンライン講義や「密」対策など、本当に手探りで進めていく毎日でした。

学生募集に関するオープンキャンパスにつきましても、昨年度は1日に約70名ほどを集めて開催していたのですが、少人数制にして午前・午後の1日2回を2日間、計4回に渡って開催するなど、学校運営の方法も大きく変わった一年でした。

「ウィズコロナ」という言葉が誕生したように、これからも新型コロナウイルスに順応した様々な手法を模索し続け、研修生及び講義や実習に携わっていただく林業関係者の安全を第一とした学校運営に取り組んでまいります。

さて、現時点（1月15日）で来年度の在校生定人数は、基礎課程が24名、専攻課程森林管理コースが5名、林業技術コースが8名、木造設計コースが8名の合計45名と、過去最高となった今年度と並ぶ数字となっております。

1月18日から2月12日まで専攻課程の一般後期募集もありますので、林業・木材産業を志す方や本校に興味のある方がお近くにおられましたら、是非

お声がけ下さいませようお願い申し上げます。喜ばしいことに、基礎課程につきましては一般前期募集で定員に達したことを申し添えます。

研修生募集や林大のPRなど、昨年の広報活動を通して顕著に感じたことは、人の流れが変わったということ。リアル開催のイベントはことごとく中止または規模縮小となり、オンライン開催に切り替わっていく中で、ステイホームしている方の情報収集の場もネット環境に依存しつつあるようです。受験生対象のアンケート結果ではウェブ広告を見て本校を知ったという人が増えました。

時代の変化に敏感な若者（研修生）から情報を吸収しながら、広報活動も展開していく所存です。

最後になりますが、新しい年が皆様にとって実りの多い年となりますことを心より祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

同窓会会報について

令和2年12月16日、本校同窓会初となる会報が発行となりました。

森林組合及び林業事業体並びに木造建築の分野に就職して活躍する卒業生や、本校立ち上げの際にご尽力して下さった林業労働力確保支援センターの津野前所長からご寄稿いただきました。

ここからは、記事を少しご紹介させていただきます。

「あの人と一緒に仕事がしたい」と思われるチームリーダーを目指して

相原 晋

（基礎課程平成27年度卒）

私が林業をやるうと思いついたのは大阪の林業ガイダンスに行った時に某県のブリスの人に「林業は危険な仕事だから君はやめた方がいいよ」と言われちよつとカチンときた事がきっかけでした。そんなに言うなら林業はどんなものかと体験ツアーに行き感じたのは「これは基礎的な技術・知識がしっかりとないとマジで死ぬかもしれん」という事でした。

そんな中、新しく林業学校ができるこの事で、いきなり事業体に入るより、自分である程度技術・知識を身に付けておかないと一発アウトがあると思いつきました。

それから自伐型林業で有名な明神林業に入り5年目、林業学校で教わった知識と現場での経験を活かして今のところ大きな怪我もなく日々現場で作業しています。

出来ることや任されることも増えていき、後輩に教える様にもなりました。次の目標は「あの人と一緒に仕事がしたい」と思われる様なチームリーダーになる事です。



香美森林組合から林業大学校在校生へのエール

石田 史哉
(基礎課程平成28年度卒)

林業学校二期卒業の石田史哉です。香美森林組合に勤めて4年目になり、今年から造林班の班長をしています。まだまだ技術、知識、経験共に不足していますが、日々の仕事の中で高めていくと共に、班長としての責任感や信頼も高めていきたいと思います。

とてもやりがいのある仕事なのでこれからも毎日楽しく頑張っていきます。

プライベートでは、2年くらい前に先輩の紹介で古民家を購入しました。

仕事帰りや休日には畑仕事や班でのジビエパーベキューなどを行ったり、雨の日で休みの時は自分好みの空間になるようちよつとしたDIYをして田舎暮らしを楽しく且つのんびりと過ごしています。

最後に、林業大学校の在学生の皆様へ。

林業はやりがいがあり、楽しい職業ではありませんが、自然相手なのでとても危険な職業でもあります。

事故なく仕事ができるよう学校でしっかり基礎を身につけてください。

卒業後高知県の林業界を活性できるように授業や研修、頑張ってください。



『り、林業?』

小笠原 英信
(林業技術コース令和元年度卒)

『マジで?!』これが以前の職場を離れる時の周りの声でした。辞めることよりも、なぜその職業に?!という驚きがほとんどでした。

林業を目指した一つに、よく『高知は自然が豊か』と言われますが、『豊か』というのは、保護と利用が両立されてこそだと思っています。だからこそ林業という自然を相手にする仕事が必要だと考えているからです。

林大に入り、夢に向かって輝いている仲間に出会えたこと、卒業してからも連絡を取り合える横のつながりができたことは、今では貴重な財産になっています。

いつか耳にする、活躍している林業従事者が、高知林大の卒業生であることを夢に、そして『り、林業! えいねえ!』と言われるよう、こういう時だからこそ、変化を前向きに捉える姿勢を忘れずに取り組んでいきます。



林大のおかげで今の私がある

竹川 展弘
(木造設計コース平成30年度卒)

早いもので、林大を卒業してから、もう1年半になります。まだまだ仕事に余裕のある状況ではございませんが、林大精神で頑張っています。

NPO法人サウンドウッズでは粗く言ってしまうと林業の立場から建築側に向けて営業活動をしたり、建築士事務所の立場から林業職の方と通訳したりしています。

今携わっている事業では三千五百m程度の原木が必要な庁舎建設の木材調達の支援をしています。林業・建築両方を横断した知識が必要です。林大の先生も何人も事業に関わっていてやり取りさせていたっており、人脈も大いに生きています。林大のおかげで今の私がある。そのことを胸に留め、日々を頑張っています。



研修生募集について
詳しくはコチラ↓

